

平成 22 年度 事務事業評価シート				新規 継続 変更				一般ソフト事業		施設等維持管理		行政事務									
事務事業名		高齢者交流センター管理業務		予算事業名				担当課		健康福祉課											
会計名称		一般会計		予算科目		3 款 1 項 2 目		所属長名		藤 充子											
総合計画での 位置づけ		誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち						担当責任者名（記入者）		重山 大輔											
								電話番号（内線）													
事業の性格		■ 内部管理事務 □ 法定事務				法令根拠等		久山町高齢者交流センター管理運営規則													
事業の対象		町内の高齢者				実施期間		【開始年度】		平成 22 年度											
								【終了年度】		平成 年度（予定） ■ 設定なし											
事業の目的		高齢者の交流と健康増進に寄与する				事業の内容		高齢者に対して風呂や交流の部屋を提供する													
改善策の具体的 取り組み（当初）		今後の施設のあり方を検討。				改善策の具体的 取り組み （二次評価後）		燃料費高等などを受け効率の良い運営のため、平成23年度より風呂の営業日を週5日から週3日に変更決定。													
事業費及び財源内訳（千円）												事業活動の実績（活動指標）									
項目		21 年度決算		22 年度予算		9月末の執行状況		22 年度決算		項目		単位		21 年度実績		22 年度予定		9月末の実績		22 年度実績	
事業費	直接事業費		3,463		3,953				3,749		利用者数	人	4937	4950	2553	5136					
	人件費		363		138		138														
	合計		3,826		4,091		3,887														
財源内訳	国庫支出金																				
	県支出金																				
	地方債																				
	その他																				
	一般財源		3,826		4,091		3,887														
事務量	① 人工数		0.05		0.02				0.02												
	② 人件費単価		7,274		6,912		6,912														
	③補助事業人件費																				
	人件費（①×②－③）		363.70		138.24		138.24														
向こう5年間の直接事業費の推移 （千円）						23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		27 年度		5年間の合計					
						3,850		3,850		3,850		3,850		3,850		19,250					
成果指標		利用者数				区分年度		21 年度		22 年度		23 年度		目標 年度							
						実績		4937		5136											
指標設定 の考え方		高齢者の方に利用して頂き健康増進と交流に努めて頂いたかということで利用者数を指標する。				目標		4900		4950		5000									
今年度の課題への 対応状況（途中経過）		次年度に向けた運営状況等の検討。燃料費の高騰や利用者状況を踏まえ効率の良い運営のため、平成23年度より風呂の営業日を週5日から週3日へと変更決定。																			
事業 の 評価 所 属 長 の 課 題 認 識	自己 評価 （ 担 当 責 任 者 ）	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的そのものである。 施策の目的に沿ったものである。 施策の目的に全くそぐわない。	4	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B	自己 の 課 題 認 識	今後、施設の老朽化等に伴う修繕改築費用などの面から、今後の施設のあり方を検討する必要がある。												
			市民ニーズへの対応	5 4 3 2 1 市民ニーズに直結する。 受益者のニーズは捉えている。 市民ニーズを捉えたものと言えない。	4																
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与すべきものである。 今のところ関与は妥当と判断できる。 市が関与すべきでない。	3																
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 市民がおおいに満足している。 市民がほぼ満足している。 市民が満足していない。	3	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B														
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 具体策が明確で、成果実績が向上している。 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 問題を解決できる目処が全く無い。	3																
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に必要である。 施策推進につながらない。	4																
		効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 計画・手段が効率的である。 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	3	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B														
			コスト効率	5 4 3 2 1 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 予算額内で目標の80％以上の実績をあげた。 成果実績に対して、予算額が過大である。	4																
			受益者負担の適正	5 4 3 2 1 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 適当な受益者負担と判断できる。 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	3																
		一次 評価 （ 所 属 長 の 課 題 認 識	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 施策の目的そのものである。 施策の目的に沿ったものである。 施策の目的に全くそぐわない。	4	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E			B	所 属 長 の 課 題 認 識	多くの方が利用されているが、施設の老朽化に伴い修繕改築等が予想されるので、今後の施設のあり方を検討する必要がある。									
				市民ニーズへの対応	5 4 3 2 1 市民ニーズに直結する。 受益者のニーズは捉えている。 市民ニーズを捉えたものと言えない。	4															
				市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 市が積極的に関与すべきものである。 今のところ関与は妥当と判断できる。 市が関与すべきでない。	3															
	有効性		事業の効果	5 4 3 2 1 市民がおおいに満足している。 市民がほぼ満足している。 市民が満足していない。	3	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B														
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 具体策が明確で、成果実績が向上している。 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 問題を解決できる目処が全く無い。	3																
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に必要である。 施策推進につながらない。	4																
	効率性		手段の最適性	5 4 3 2 1 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 計画・手段が効率的である。 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	3	合計点が 14～15：A 10～13：B 8～9：C 5～7：D 3～4：E	B														
			コスト効率	5 4 3 2 1 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 予算額内で目標の80％以上の実績をあげた。 成果実績に対して、予算額が過大である。	4																
			受益者負担の適正	5 4 3 2 1 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 適当な受益者負担と判断できる。 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	3																

一般ソフト事業	施設等維持管理	行政事務
---------	---------	------

事務事業名	高齢者交流センター管理業務	予算事業名		担当課	健康福祉課
会計名称	一般会計	予算科目	3 款 1 項 2 目	所属長名	藤 充子
総合計画での位置づけ	誰もが安心して暮らせる健康福祉のまち			担当責任者名（記入者）	重山 大輔
				電話番号（内線）	
事業の性格	☒ 内部管理事務 ☐ 法定事務		法令根拠等	久山町高齢者交流センター管理運営規則	
事業の対象	町内の高齢者		実施期間	【開始年度】	平成 22 年度
				【終了年度】	平成 年度(予定) ☒ 設定なし
事業の目的	高齢者の交流と健康増進に寄与する		事業の内容	高齢者に対して風呂や交流の部屋を提供する	
改善策の具体的取り組み（当初）	今後の施設のあり方を検討。		改善策の具体的取り組み（二次評価後）	燃料費高等などを受け効率の良い運営のため、平成23年度より風呂の営業日を週5日から週3日に変更決定。	

（自己評価） （担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	4	B		B	4	目的の妥当性	妥当性	（所属長） （一次評価）					
		市民ニーズへの対応	4				4	市民ニーズへの対応							
		市の関与の妥当性	3				3	市の関与の妥当性							
	有効性	事業の効果	3	B		3	事業の効果	有効性							
		成果向上の可能性	3			3	成果向上の可能性								
		施策への貢献度	4			4	施策への貢献度								
	効率性	手段の最適性	3	B		3	手段の最適性	効率性							
		コスト効率	4			4	コスト効率								
		受益者負担の適正	3			3	受益者負担の適正								
	課題認識	今後、施設の老朽化等に伴う修繕改築費用などの面から、今後の施設のあり方を検討する必要がある。				自己評価は、担当者が主に事業推進を効率的効果的に進めたかどうかを評価したもの。 一次評価は、担当者の自己評価を踏まえて施策の推進を念頭に置き、所属長が評価したもの。					多くの方が利用されているが、施設の老朽化に伴い修繕改築等が予想されるので、今後の施設のあり方を検討する必要がある。				

施策を踏まえた判断	二次評価	☐	一次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。		指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。	
		☒	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。			
		☐	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。			
		☐	一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。		一次評価をやり直し、 月 日 までに事務局へ提出すること。	
		☐	市民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。			行政評価委員会で評価する。 答申期限： 月 日
		☐	一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			
		☐	一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容 施設の老朽化、修繕費、光熱費の高騰等を踏まえ、今後の施設のあり方を検討する必要がある。利用者が固定化しているので、より多くの高齢者が利用できるよう、高齢者の健康増進のためのイベント開催など、ソフト的事業の展開や、社会福祉協議会等の活動で積極的に活用していくなど、利用者数の増加策を検討していく必要がある。
------------	------	--

経営者会議の最終判断	事業の方向性	☐ さらに重点化する。 ☐ 現状のまま継続する。 ☒ 右記の点を見直しの上、継続する。 ☐ 事業の縮小を検討する。 ☐ 事業の休止、廃止を検討する。	コメント欄	施設については、高齢者の憩いの場として重要な役割を果たしていると考える。今後はより多くの高齢者の方に利用していただくように、町及び社会福祉協議会等の主催イベントを開催し、施設利用者の増加に取り組んでいく。但し、風呂場については、維持管理費の高騰が続いており、今後の利用状況を踏まえ廃止についても検討を行っていく。
------------	--------	---	-------	---